

国

語

(解答番号

1

)

37

(

国 語

試験時間60分

〔注 意〕

- この問題冊子は指示があるまで開いてはいけない。
- 受験番号が正しく記入・マークされていない場合は0点となる。
- 解答はすべて解答用紙の所定欄にマークすること。例えば、問題文中に

10

 と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のように **解答番号10の解答記入欄の③**にマークすること。正しくマークされていない場合は採点できないことがある。

(例)

解答番号	解答記入欄 (マーク)									
10	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

- 問題冊子の各ページの余白は自由に使用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
- 試験終了後、解答用紙は通路側に置くこと。なお、問題冊子は持ち帰ること。

〈マーク式についての注意〉

- 機械が読み取って採点するので、折り曲げたり汚したりしないこと。
- マークはHBの鉛筆で枠の中を濃く塗りつぶすこと。
- 1つのマーク欄には1つしかマークしないこと。
- 訂正はプラスチック消しゴムでよく消し、消しきずはきれいに取り除くこと。
- 所定欄以外には何も書かないこと。

問題一 次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

文学ないし〔注〕藝術が、個性の表現であり、個人の創造物であると信じられるようになった。¹シチヨウは、ロマンチズムの運動以来のことである。われわれは近代文学あるいは近代藝術のあり方に、もつとも親近な感じを持っているから、それがあたかも、永遠のあり方であるかのように空想しがちだ。だが、われわれが今日、永遠の態度と想っているものは、じつは人間の歴史のなかにおける一つの態度にすぎないのである。そういう態度を取る人は、たとえ過去において今日とは別の態度が考えられるとしても、それはまだ文化が十分に発達しなかった時代における態度であり、そのような未開原始の状態を脱して、文学は今日における一つの態度に到達したのだから、それは当然、過去よりも進歩したもので、優位に立つと考えている。

このような考え方に、大胆な疑問を提出したのが、T・E・ヒュームであった。彼は、今日における藝術の創作態度を、たとえば重力の法則の発見のような進歩と見ず、可能な一つの態度から他の態度への変化にすぎないと見た。そのことはまた、当然今日における態度が、将来反対の態度へ変化することもありうると思われるのである。いや、変化はかならず起きるので、そのきざしは今日すでに認められるのである。ヒュームはそのことを、造型藝術について論証したが、それが深く、その時代の生の解釈に²イキヨするものであるかぎり、文学においても妥当するのである。

ハーバート・リードによれば、詩は起原において、「共同体と同じ振りをもった訴え」であり、今日の到達点において、「詩人がおのれに対してのみなす訴え」である。もちろんこれは、詩における二つの対照的な態度を抽象的に規定したものであって、^a現実においては、作品が純粹にそのようなあり方を示すことはまれである。^b人麻呂のような古代の詩人が、ある公的な場で、作品によってできるだけ広い範囲に訴える役目を課せられていたとしても、それを果すことで、同時にそのような詩を作りだすものの喜びを感じることを、それはいなむものではない。また今日の詩人が、もっぱら自分の創作のよるこびのために詩を作ったとしても、同時にそれが、読者に伝達されてなぐさめを与えることを、まったく予想していないとは言われない。だから、この二つの極のあいだに、いろいろな段階において、詩人の態度がありうるわけである。だが一般的に言って、

今日の詩人の作る詩が、「詩人がおのれに対してのみなす訴え」つまりモノローグの詩であろうとする傾向を持つことは事実である。

たとえば、中世のカテドラルの色ガラスの製作者である工匠たちには、まだ藝術家としての意識は発生していないし、一介の職人としての意識を持っていたに過ぎない。だが、それらの制作品から見て、彼等がすぐれた藝術家だったことは疑いない。彼等は近代の藝術家たちのように、自己表現の欲求に憑かれたり、自分の心の内奥に対してささやきかけようとしたりはしないが、自分をも含めて、当時の人々の心を充たしていた「聖なる宇宙」を、造型的に創り出し、それによって、^c自分を全体に結びつけようとしたと言えるだろう。色ガラスに認められた文字は、制作者の名前ではなく、粉屋組合、革製造人組合等の共同社会の名前なのである。

このような完全な個性没却の上に立った中世の宗教藝術に対して、ルネサンスの時代から、自分と自分の作品に対する新しい自覚が生れてくる。そしてその自覚が、自分を藝術家として意識するに到り、これまでの職人意識から自分を区別させるに到るのである。自分の創り出すものは、自分以外のだれにも不可能なものであり、それは自分を他のすべての人から区別するもので、言いかえれば、それは他の誰とも違った自分の表現である。それまでは、「創造」ということは神のみに属するわざであるという意識があり、藝術とはアリストテレスが名づけたように、「模倣」を意味した。だが、今や藝術家たちは、自分の創り出すものに対するかぎり、神の位置に立ち、その制作物に対して、自分のみがなしたのだという「独創」の荣誉を要求する。^d「独創」という観念は「個性」という観念と不可分で、それはロマンチックな藝術観の根本理念をなす。

ロマンチズムの中心観念は、創造する個性ということだ。ロマンチズムは藝術制作の上で、個性を拡大し、開発しようとする試みとして、今日に到っている。それは、作品創造の究極因として個性を考え、また表現の究極目標として個性を考え、^e創造する個性が同時に表現される個性である。だが当初は、ロマンチズムの最良の担い手たちは、言わば巨大な個性の所有者、表現のための無限の資源の貯蔵庫としての個性の所有者でもあった。彼等が近代の藝術家として、表現のための、主張する個性を持っていたとしても、それは

イ

個性であって、今日のように断片化し、些末化し、猥雑化しないこと

る個性である。個性が演技され、^③フンシヨクされた一種の悲痛さ、深刻さにおいてでなければ、表現の目標となりにくくなつたのが、今日の文学である。皆ひとしく、些末な個性を後生大事に主張し合っていることにおいて、今日の文学はひどく

□である。

そのような個性の些末化、むしろ擬似個性への転落を、人はタレントと呼んでいる。タレントは、人々が百人いれば百の違つた容貌があるように、無限に存在することができる。他からちよつとも際立つた特色を持っていれば、タレントとしてもはやされることができるが、それは人を長く惹きつけているわけにはいかない。なぜなら、タレントはいくらでも代りが見つけられるからである。

今日の藝術は、もはや「枯渇の泉」からしか汲むことはできないと、ヴァレリーが言った。孤独の境位に追いやられた藝術家の個性が、荒しつくされ、汲みつくされて、それでも人々は大事な護符のように、そこから何物かが生み出されることを念じている。方法論議だけは精密になつたが、それは浅い井戸底から、どのように工夫して水を汲み出すかの論議に過ぎず、さらに豊富な水脈を掘り当てようとの論議ではない。

文学は白紙の上に書かれるものであるという信念が、今日の文学者たちには存在する。それは白紙の上に押された個性の刻印であつて、その意味でそれは、□ハであるという考え方である。だが、文学があらゆる時代にそうであつたわけではない。作者たちはその時代の、またその属する社会の、共通した地模様の上に、作品を書いたのである。それは作者と読者と同じ世界に住み、同様の人生を共有していることを証明する証しであつた。ロマンチズムの作家たちは、□ニから出発する。自分をエリートと意識することで、読者から自分を区別し、そのような特殊な自己の表現として、作品の特殊性を誇示しようとする。それは末期現象としては、自分のあらゆる弱点も、恥ずべき経験も、異常心理も、作家にとっては誇示の対象となる。

ロマンチズムの作家たちは、かならずしも作品を自己充足的なものとは考えないが、それぞれの個性を充足的なものと考ええる自己満足を持っている。その結果が、些末な個性的特色をも誇示しようとする傾向を生むのだが、これはロマンチックな

個性の転落現象である。そのような境位からの救いは、^①如何なる藝術家の個性も、単独ではその意味を完了しないことを、認識することである。個性没却は、かえつて個性の救済の方途なのである。

(山本健吉『行きて帰る』による)

〔注〕藝：芸の旧字

問一 傍線部(1)～(3)の片仮名に該当する二つの漢字と同じ漢字を使うものとして最も適切なものを、それぞれ①～④の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

- (1) 1 上昇シコウがある人
 - 2 AI研究のコウシとなる
 - 3 シアンに暮れる
 - 4 事の成り行きをチュウシする
- シ
- チヨウ
- 1 チヨウイは約半日の周期で変化する
 - 2 現代をシヨウチヨウする事件だ
 - 3 景気回復のヨチヨウ
 - 4 世俗をチヨウエツする

- (2) 3 イキヨクを尽くして訴える
 - 2 旧態イゼンの組織
 - 3 本社をイテンする
 - 4 ウウイな人材
- イ
- キヨ
- 1 規律違反をモツキヨする
 - 2 災害援助金をキヨシユツする
 - 3 ケンキヨな人柄
 - 4 マイキヨにいとまがない

- (3) 5 カフン症が悪化する
 - 2 事態をフンキユウさせる情報
 - 3 フンパツして高いケーキを買う
 - 4 溶岩のフンシユツ
- フン
- シヨク
- 1 室内ソウシヨクの専門家
 - 2 憲法にテイシヨクするおそれ
 - 3 将来をシヨクボウされている若手研究者
 - 4 シユツシヨクの出来栄え

問二 波線部(a)であるのは、なぜか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

- ① 二つの対照的な態度は単に抽象的な指標であり、詩人が創作する場合、古代であろうが現代であろうが訴えかけの形式は、おのおのの詩人によってさまざまな形をとるため、きっちり区分することなどできないから。
- ② 「共同体と同じ扱がりをもった訴え」と「詩人がおのれに対してのみなす訴え」の間にはいろいろな段階があり、古代の詩人が創作に喜びを見出すと共同体への訴えの効果が減じてしまうし、現代の詩人が読者のなぐさめのために創作するとモノローグとしての価値がそこなわれるから。
- ③ 「詩人がおのれに対してのみなす訴え」は、モノローグである以上、古代の詩人が共同体にむけて創作した詩よりも、純粹度の点でまさっているため、現代の詩と古代の詩を純粹さで比較しても無意味であるから。
- ④ 古代の詩人が公的役割を果たす際でも個人としての喜びを感じることは充分ありえたとし、現代の詩人が自分のためだけに創作をしてもできた作品が読者になぐさめを与えうる点を考えれば、現実の作品は詩における二つの対照的な態度の間にあるいろいろな形をとるものだから。
- ⑤ 共同体への古代詩人の訴えかけは、公的な事柄であるため受け手を喜ばせる必要があるが、現代の詩人はもっぱら自己の創作の喜びのために詩を作るため、読者に対してなぐさめを与える場合がまれであるから。

問三 波線部(b)は、柿本人麻呂を指すが、その作品が収められているものとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

- 1 『一握の砂』
- 2 『閑吟集』
- 3 『若菜集』
- 4 『奥の細道』
- 5 『万葉集』

問四

- 波線部 (c) とはどういうことか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。
- ① 「聖なる宇宙」を表現することは、工匠たちにとって自分たちが属する共同体への忠誠を誓う意味できわめて重要だった。
 - ② 中世キリスト教世界においては「聖なる宇宙」への信仰は絶対で、すべての創作はそれを表現することに限定されていた。
 - ③ 工匠たちは、カテドラルの色ガラスで「聖なる宇宙」を造型することにより、自分たちが共同体の一員であることを表現した。
 - ④ 一介の職人でしかない中世の工匠たちは、「聖なる宇宙」を造型することで共同体における地位を高めようと試みた。
 - ⑤ 中世の共同社会では、自己表現の欲に憑かれたり、心の内奥を表現したりすることは、「聖なる宇宙」の調和を乱すと考えられていた。

9

問五

- 波線部 (d) であるのはなぜか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。
- ① 個性没却の中世に対して、ルネサンスは自分と自分の作品に対する新しい認識、すなわち神を「模倣」することが重要であるという認識が生まれ、芸術家たちはそれぞれ個性を尊重するようになったから。
 - ② これまでの職人意識から脱して個性に目覚めた芸術家たちは、自己表現の欲求に憑かれて独創的な形で全体に結びつくようになるようになったから。
 - ③ 神の位置に立って「創造」することにより、芸術家たちは世界全体に「聖なる宇宙」を伝える使命に目覚め、創造する個性を生きるようになったから。
 - ④ 個性没却を完全否定し、モノローグを芸術の主軸と定めた芸術家たちは、自分を他のすべての人から区別することを「独創」だと考えるようになったから。
 - ⑤ 自分が創造するものは、自分以外のだれにも不可能なものであり、他のだれとも違った自分の個性が生み出す表現であり、それこそが「独創」だと芸術家たちが考えるようになったから。

10

問六

- 波線部 (e) とはどういうことか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。
- ① 個性は演技されることで、表現の究極目標としての個性にたどりつけるということ。
 - ② 創造された作品と作り手である自己を同一視すること。
 - ③ 自己という個性を表現することが、創造行為の最終目標になること。
 - ④ 自分の作品が、他の誰にも真似できないものであることを、社会に主張すること。
 - ⑤ 些末な個性を主張しあうことで、他者との差異を際立たせようとする。

11

問七 空所イ、ロに入るものの組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

12

- | | | |
|---|---------------------------|-------|
| ① | イ 没個性的・普遍的なものにつながる受容量の大きい | ロ 類型的 |
| ② | イ 普遍的・宇宙的なものにつながる熱量の大きい | ロ 典型的 |
| ③ | イ 究極的・創造的のものにつながる全体量の大きい | ロ 大衆的 |
| ④ | イ 独創的・特異的なものにつながる質量の小さい | ロ 断片的 |
| ⑤ | イ 意志的・一元的なものにつながる重量の小さい | ロ 変則的 |

問八 空所ハ、ニに入るものの組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

13

- | | | |
|---|-------------|---------------------------|
| ① | ハ 伝統の排除 | ニ 選ばれた存在として神と同様の地位を要求すること |
| ② | ハ 表現の究極目標 | ニ 自らの特殊性について読者に理解を求めること |
| ③ | ハ 究極の個性 | ニ 自らの個性と作品が相互に充足的である地点 |
| ④ | ハ 完全な創造物 | ニ 作者と読者のあいだに存在する共通の世界の拒絶 |
| ⑤ | ハ 白紙委任された作品 | ニ 自分たちが属する社会に対する軽蔑と否定 |

問九 波線部（f）とはどういうことか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

14

- ① 疑似個性としてのタレントがもてはやされる現代においては、作品創造の究極因としての個性は大衆性であるということ。
- ② 芸術家は、みずからと同じ世界に住み同様の人生を共有する人々と、個性没却的に感覚を分かち合うことによつて真の個性をもちうるということ。
- ③ 創作者は自己満足的モノローグを創ることをやめ、豊富な水脈を求めて中世の「聖なる宇宙」への帰依と同様な何かを探すようになるということ。
- ④ 芸術が浅い井戸底からしか汲み出せなくなった現代においては、大胆な他者模倣にこそ活路が見いだせるということ。
- ⑤ 表現のための無限の資源の貯蔵庫としての個性を取り戻すためには、芸術家は一介の職人としての意識に立ち帰る必要があるということ。

問十

本文の内容に即した記述として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

15

- ① 文学は白紙の上に書かれるものだという信念は、自己を全体に結びつけようとする中世的観念とは正反対のものであり、むしろそれは創作者が自らの属する社会と共通する地模様の上に作品を書くことと同義である。
- ② 自己の創作のよろこびと受け手になぐさめを与える価値との間で、古来芸術家は常に揺れてきた。ロマンチズムの最良の担い手たちはそのバランスをうまくとることができたが、疑似個性に過ぎないタレントたちは受け手に媚びることで些末化した。
- ③ 古代・中世の芸術家にとって、芸術は共同体への訴えかけであつて自己表現の道具ではなかった。ルネサンス時代になり、個性の自覚とともに他の誰とも違った自分の表現が目指されるようになり、さらにロマンチズムにおいては個性こそが表現の究極目標とされるようになった。
- ④ ロマンチックな芸術表現の根本理念は「独創」だが、それを持続的に行なうには無限の資源が個人の内部になければならない。現代の芸術家たちは、自分が特殊な存在であることを誇示し、自己の弱点も恥ずべき経験も異常心理もすべて暴露することにより「独創」を維持している。
- ⑤ 文学ないし芸術が、個性の表現であると信じられるようになったのは、ルネサンス期からのことである。以後、職人意識を捨てた創作者たちは、精密な論議を尽くして、作品を自己充足的なものと自己満足的なものに分類できるようになった。

問題二

次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

〔注〕ハッキングは、一八三〇年ころのJ・S・ミルとマコーリーの論争を最後として、^(a)人間についてはもはや語られなくなつたということを指摘して、その理由がフーコーのいう生命政治にあると論じた。生命政治とは、まさに現代の群れの政治を解明する概念である。

フーコー『臨床医学の誕生』によると、現代の医療体制は、一八世紀末、産業組織や政府機関に従事する科学者階層の出現と平行して、野戦病院における **イ** な治療技術および医師教育法を社会で活用しようとする政策の結果として生まれてきた。ここでは、統計学がその重要な手段とされるようになったと説明されている。

ハッキングは、それに対し、統計学は手段というばかりではない、生命政治とは切り離せないものだったと主張している。というのも、統計学を通じてこそ、^(b)「正常」という概念が、二〇世紀の最も強力なイデオロギーの道具となつたのだからである。すなわち、統計学によって、もはや「人間とは何か」ではなく、「正常か異常か」ということがすべての議論の基準にされるようになったのだというのである。

どういうことか。現代医療体制の原型である野戦病院では、多数の傷病者を効率よく治療しなければならない。ある兵士は戦場に復帰させ、ある兵士は帰還させ、ある兵士は無駄に治療するのをやめて、「名誉の戦死」としなくてはならない。そこに^(c)「トリージ」の思想が生まれてきた。

戦争を首尾よく遂行するという明確な目的のもとで、すべてのひとの命を救うのではなく、最も死に近いひとには黒いタグをつけて放置して、医師や器具や薬品といった医療資源を効率的に分配し、最大数の命を効率よく救うのでなければならぬのである。

では、どのように選別してタグをつけるのか。身体の状態の識別基準は、一人ひとりの人生やそれへの想いによってではなく、「公正な」検査による測定結果の数値でなければならない。そのために、病院では、熱を測り血液を採り、その他、さま

さまざまな数値が平均の一定範囲に収まっているかどうかをチェックする。

平均とは、「正常」であるという意味である。逆に病気とは、それからずれているということである。身体のさまざまな器官のどこかで、具体的には指摘できないにしても、その数値を平均から逸脱させる問題事情が生じているから平均から外れるのであり、その数値が「異常」の徴候となって現われているとされるのである。

ルネサンス期においても、発汗など病気のさまざまな徴候（しるし）^{〔1〕}が、病気の経過を示すものとして理解されていた。それは医師それぞれの見識による判断であった。しかし、一九世紀以降になると、徴候間の関係が数値に置き換えられるようになり、正規分布（ベル型曲線）で表現されるようになった。だれにでも目で分かるグラフによって与えられるようになったのである。

とはいえ、そこで「正常」とされる数値自体は、病気でないことの^{〔1〕}ホシヨウではないのはもちろんのこと、身体の何らかの状態についての根拠でもない。そのベル型曲線の中央、平均値に隣接するある一定範囲にあるということにすぎないが、しかし同時にまた、平均に近いその範囲にあることが望ましいとされる。「正常」とは、そのような奇妙な概念である。ヒュームが「存在から当為を引きだしてはならない」と警告していたが、まさに統計学的判断は、現象を説明しているだけではなく、目指すべき目標を示している。

「正常」は、事実でもあれば、□でもある。正常であるからといって、身体の各器官がそれぞれ完全に機能し、相互に調和している状態なのかどうかは分からない。それは調べようがない。ただ、検査によって数値を得て、その統計をとり、十分に多くのひとの平均値に応じて「正常」と判定されるだけである。しかも、正常とされる数値が「よい」とされるのは、患者の身体の状態に対してだけではない。健康であるとされる平均的なひとの数が統計的に増えるという意味によってでもある。

この思考様式（エビステマー）は産業界においても同様であった。大量生産が普及するにつれて「標準」という概念が成立する。これは、たとえばボルトのネジの^{〔2〕}セイドが、どのナットともかみ合う一定範囲に収まるように製作されなければ

ならないところから生じた概念である。

それぞれが交換可能なボルトとナットとして製作される場合、^{〔2〕}セイドには限界があるのだから、真に完全に合致するボルトとナットは存在しない。しかし、それを目指して製作すると、誤差は正規分布に応じた結果となる。それを一定範囲に収め、交換可能であるように、すなわち相手を変えてもかみ合うように製作されたものが標準、すなわち「正常」であり、そうでないものが不良とされる。その関係が確立されたのが、一九世紀末、ロンドン万博におけるコルト社の拳銃においてだったという。

さらにそれは、社会の諸制度や諸基準についても同様であった。たとえば身長が平均に近いひとには、電車の吊革の長さの標準が対応しているので、それを掴みやすいという利点があるが、そのような意味で、社会には学歴や給与など、多数の指標による「吊革」があって、どれを掴むかによって人生が決まってしまうほどのものになっている。平均に近いか、できたら平均の右にずれた方が有利な場合が多い。「正常」とも「標準」ともいうが、現象を表現する単なる統計学的概念が、それ自体、いまの社会の一つの価値となっているのである。

（船木亨『現代思想講義』による。一部改変）

〔注〕人名。哲学者。

問一 傍線部(1)、(2)の片仮名に該当する二つの漢字と同じ漢字を使うものとして最も適切なものを、それぞれ①～④の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

(1) 16

- ① ホジョウを整備する
② 栄養をホカンする
③ チホを固める
④ ホシンに走る

ホ

シヨウ

17

- ① シシヨウをきたす
② シヨウコを示す
③ ムシヨウの愛
④ 移住をシヨウレイする

(2) 18

- ① 食品のエイセイ管理
② セイセイして不純物を除く
③ 封建時代のイセイ
④ 綱紀をシユクセイする

セイ

ド

19

- ① キド哀楽を共にする
② 現代のドレイ制と闘う
③ セツドを守る
④ ケンド重来を期する

問二

波線部(a)

となったのはなぜか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

20

- ① 現代の医療技術の発達によって人間という概念はもはや意味をなさなくなったから。
② フーコーのいう生命政治をめぐる議論によって人間についての問題が解明されたから。
③ 統計学によって、「人間とは何か」ではなく、「正常か異常か」が議論の基準になったから。
④ 人間の正常性をめぐるイデオロギーが批判的に検討されるようになったから。
⑤ 野戦病院を継承する現代の医療体制が人間の尊厳を奪っているから。

問三

空所に当てはまる語として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

21

- ① 効率的 ② 人道的 ③ 応急的 ④ 特例的 ⑤ 近代的

問四

波線部(b)を本文に即して説明したものととして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

22

- ① 「正常」かどうかは数値的に判断されるが、そこには主観が入り込む。
② 「正常」とは達成すべき目標であるのにもかかわらず、客観的な状態を示すものとして扱われる。
③ 「正常」である方が健康である可能性が高いが、そこから逸脱しているからといって不健康ではない。
④ 「正常」とは数値的な平均に近いことを示したものであるが、目指すべき目標と捉えられている。
⑤ 「正常」とは誤差が一定の範囲内に収まった製作物を指すが、だからといってそれらが交換可能なわけではない。

問五 波線部（c）を説明したものと最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

23

- ① 徴候と徴候の関係性についての見識によって診断する。
- ② 平均から大きく外れた数値を判断材料にしない。
- ③ 医師が自らの信念に基づいて客観的に判断する。
- ④ 全ての人の命を平等に扱うために検査する。
- ⑤ 数値的な平均に基づいて、傷病者を分類する。

問六 空所口に当てはまる語として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

24

- ① 認識
- ② 現象
- ③ 表現
- ④ 価値
- ⑤ 確率

問七 本文の内容として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークして答えなさい。

25

- ① 「標準」という概念の普及が大量に製品をつくる技術の確立を促した。
- ② 目標とすべき状況が数値で設定されると、今度はその数値を向上させることが目標となる。
- ③ 単なる平均に過ぎないものが社会の基準となることで人の生き方に多大な影響を与えている。
- ④ 医療に関する各種の検査を実施することによって、健康を維持する人の割合は増加する。
- ⑤ 「標準」に近い人は有能であることが多いため、学歴や年収が高くなる傾向がある。

問題三 次の各問に答えなさい。

問一 (1)～(5)の文の【 】に入る最も適切な語を、それぞれ①～⑤の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

26

}

30

- (1) 風雨にさらされ苔に覆われて埋もれかけた句碑の文字の【 】は容易ではなかった。
- ① 熟読
- ② 精読
- ③ 解読
- ④ 判読
- ⑤ 味読

26

(2) 芸に敵しい師匠の前では【 】してしまっ、普段の稽古の成果を十分に発揮できない。

27

- ① 固縮
- ② 緊縮
- ③ 凝縮
- ④ 圧縮
- ⑤ 萎縮

(3) 母は生姜が健康維持に役立つと【 】し、ありとあらゆる料理や飲み物に生姜を入れて摂取している。

28

- ① 凶信
- ② 誤信
- ③ 威信
- ④ 信頼
- ⑤ 盲信

(4) 私は知らぬ間に深い森に迷い込み、暗闇の中を跋扈する【 】の気配に震えながら一夜を過ごした。

29

- ① 魍魎
- ② 靈驗
- ③ 木霊
- ④ 妖精
- ⑤ 聖靈

(5) 彼は自らの生い立ちと重ね合わせ、家族のために懸命に働く少年に【 】の情を抱いたのであった。

30

- ① 哀悼
- ② 憐憫
- ③ 同感
- ④ 博愛
- ⑤ 哀惜

問二 慣用表現を用いた(1)～(5)の文の空所に当てはまる語として最も適切なものを、それぞれ①～⑤の中から一つずつ選び、マークして答えなさい。

31

35

(1) 経営難によって従業員を解雇しなければならなくなったのは、自らの [] の致すところだと社長は詫言った。 []

- ① 不徳 ② 背徳 ③ 仁徳 ④ 道徳 ⑤ 悪徳

(2) 炎を描くために自宅に火を放つという、画家の [] を逸した行動に、人々は驚くばかりであった。 []

- ① 常套 ② 常軌 ③ 常道 ④ 常態 ⑤ 常識

(3) 雲海に浮かぶ尾根道に続く熊野古道を歩いたのは、 [] に尽くしがたい神秘的な体験であった。 []

- ① 描画 ② 言葉 ③ 筆舌 ④ 言説 ⑤ 贅沢

(4) 多くの若手俳優が起用された青春群像劇のなかで、彼女の演技力は [] を放っていた。 []

- ① 精彩 ② 異能 ③ 異才 ④ 香气 ⑤ 光輝

(5) 救急隊員が、急病患者の受け入れ先を一刻も早く探すべく最大限の努力をしたことは [] をまたない。 []

- ① 折 ② 機 ③ 隙 ④ 間 ⑤ 言

問三 文意が一通りに限定されるものを、次の①～⑧の中から二つ選び、マークして答えなさい。ただし解答の順序は問わな

36

37

- い。
- ① 少し遅れて会議室に入った冬彦は緊張した面持ちで正面に着座した秋雄に一瞥を送りゆっくりと窓の外を眺めた。
- ② 有名劇団主催の難関オーディションを突破した春子は若き日に夏美といつか上りたいと夢見た憧れの舞台に立った。
- ③ 周辺住民の理解を得られていないとして市が来年度着手予定のプロジェクトについて始動時期の延期を要請してきた。
- ④ 薪がはぜる音だけが聞こえる静寂の闇のなかで雪子は涙を流しながら出来事の顛末を語る月子の声に耳を傾けた。
- ⑤ 富士山の登山客の急増で生じたオーバーツーリズム問題の解決策として山梨県知事は登山鉄道の敷設を提案した。
- ⑥ 旅慣れた花子が提案した旅程は再考の必要があるというので私たちの班ではもう一度計画を練り直すことになった。
- ⑦ 春美は夏休みに夏子と同郷の秋乃と釧路湿原のカヌーツアーに参加し雄大な自然の風景を目の当たりにし感動した。
- ⑧ 夏目漱石の小説に登場する老舗料理店が暖簾を下ろしたのは美食家のみならず文学愛好家にとっても残念なことだ。